

# 令和6年度 学校評価

伊予市立中山小学校

令和7年2月

【評価基準】 A:目標を達成(80%以上) B:おおむね達成(60%以上) C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果				
							4	3	2	1	分からない
仲間を大切に する子徳	○生命の大切さを自覚する道徳教育の推進	○命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にしている。  【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○教職員の呼び掛けにより、朝、登校をしたらずぐに、一人二鉢栽培の花の世話や観察をすることが習慣化している。また、生活科や理科の学習の中でも植物を育てており、成長を楽しみにしている。 ○児童は、日頃から、生き物や自然に親しんでいる。生活科や理科などの教科において、身の回りに生息する虫などの小さな生き物を身近に感じながら大切に育てることを通して、生命尊重について学習することができていると考える。	教職員アンケート	A	38	62	0	0	
					保護者アンケート	A	29	59	6	0	6
					児童アンケート	A	96			4	
	○いじめの早期発見・早期対応・未然防止に努めている。  【目標値】 ○教職員・保護者の8割以上が肯定	A	○毎月1回、学校生活アンケートを実施し、それを基に教育相談を全員に実施している。また、週に1回の縦割り班活動や月に1回の全校で給食を食べる日、全校で遊ぶ日、全校で読書をする日をもつなど、小規模を生かして、全員で実施する活動を定期的に行っている。教職員も一緒に参加することで、自学級以外の児童の変化にも目を配ることができるように努めている。今後も、児童の変化を全教職員で見取るようにし、いじめの未然防止に努めたい。	教職員アンケート	A	62	38	0	0		
				保護者アンケート	A	41	47	6	0	6	
					いじめ・不登校状況	いじめ・不登校1件					
学校関係者評価委員の所見	○友達関係に不安を持っている児童もいるのではないかとと思われる。今後も注意して指導をお願いしたい。 ○よくできていると思う。今後も継続して指導をお願いしたい。 ○いじめはいつ起こってもおかしくない。これまで通り解消に向けて全力で当たってもらいたい。			学校の対応	○すべての児童にとって、より一層、安全・安心な学校を目指して、学校経営・学級経営に努める。 ○「いじめは、どのクラスにも起こりえる」という認識のもと、アンテナを高くし実態把握に努める。いじめが起こった時には、被害児童の立場に寄り添い、少しでも早い解消に向けてチーム学校として取り組む。						

【評価基準】 A:目標を達成(80%以上) B:おおむね達成(60%以上) C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果				
							4	3	2	1	分らない
仲間を大切に する子徳	○人権・同和教育の充実	○豊かな関わりを育む異年齢集団活動が充実している。  【目標値】 ○異年齢集団活動を実施可能な時間数(月3回)に対して9割以上実施 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○週に1回の縦割り班活動をはじめ、月に1回の全校で給食を食べる日、全校で遊ぶ日、全校で読書をする日をもつなど、定期的に全校児童で活動するようにしている。複式学級を生かして、子どもたち同士が自然に誘い合って遊ぶことができる風土が整っている。	教職員アンケート	A	75	25	0	0	
					保護者アンケート	A	47	35	6	6	6
					児童アンケート	A	93			7	
					異年齢集団活動(2学期)	合計 2.5 回					
	特別支援教育の充実	○友達に対して、思いやりのある言動ができています。  【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	B	○なかよし集会を行い、中山小学校言葉のルールを全校児童で確認したり、各学年で実行していく項目を紹介し合ったりした。朝の挨拶運動も、14あいさつ運動週間に取り組んだり、強化週間を設定したりした。そのことで、心が通う挨拶が充実したり、温かい言葉遣いで関わりが持てたりするなど、相手を思いやる心が育っている。 ○学校生活全体を通して、相手を思いやる心情の育成を図っている。相手を傷つけるような言葉遣いや不適切な言葉遣いが出た時にはその都度指導している。正しい言葉遣いや、ふさわしい行動のあり方を考えさせる実践的な指導を継続している。	教職員アンケート	B	25	50	25	0	
					保護者アンケート	B	24	46	12	0	18
児童アンケート					A	96			4		
学校関係者評価委員の所見	○特別支援教育の充実	○児童一人一人の実態を把握し、個に応じた指導を行っている。  【目標値】 ○教職員・保護者の8割以上が肯定	A	○教職員間や学校生活支援員との情報交換を密に行うことで、児童の実態把握がしっかりとでき、生徒指導・学習の両面で個に応じた指導をすることができた。 ○専門機関と連携し、ケース会議を開いている。ケース会議で話し合ったことは、教員間で共有して、共通理解のもとで指導に当たれるようにした。	教職員アンケート	A	37	50	13	0	
					保護者アンケート	A	24	59	0	0	18
	学校関係者評価委員の所見	○多様化社会が進む中で子どもたちには、学校内で集団行動を通じた仲間の大切さをしっかりと伝えていってほしい。 ○よくできていると思う。今後も継続して指導をお願いしたい。 ○全校で活動する取組をいろいろと実施しているところが評価できる。今後も継続して実践してほしい。		学校の対応			○今後も、様々な場面で異年齢集団での縦割り班活動を積み重ねていくことで、互いを思いやることのできる仲間づくりやいじめを許さない集団づくりに努める。児童の意見を取り入れた活動を積極的に取り入れ、よりよい集団づくりに資する活動を実践していく。				

【評価基準】 A:目標を達成(80%以上) B:おおむね達成(60%以上) C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果				
							4	3	2	1	分からない
考え、 表現する子	○基礎・基本の確実な定着	○児童には、発達段階に応じた基礎的な学力が身に付いている。  【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定 ○漢字・計算検定で9割以上の児童が合格(合格90点) ○自主学習ノートの活用回数(低:週3回以上、中週4回以上、高6回以上)	A	○漢字検定や計算検定は、目標を達成することができた。繰り返し学習に取り組むことで、学年相応の漢字や計算が出来るようになっている。また、タブレットを使ったドリル学習にも進んで取り組んでいる。自主学習では、自分の得意なことや興味のあることを学習することができている。 ○毎週1回、朝の時間を活用した「算数ぐんぐん学習」や読解力ワークへの取り組みを継続しており、読解力を問われる問題を解くことにも慣れてきた。 ●児童アンケートに比べ、保護者アンケートでは肯定率が低い回答もあり、個人差があると思われる。児童の頑張りや伝えるとともに、家庭と協力しながら個別支援を行うようにしていきたい。	教職員アンケート	A	13	62	25	0	
					保護者アンケート	C	6	53	29	12	0
		児童アンケート	A	100			0				
		漢字検定	A	90点以上 学年平均86%							
		計算検定	A	90点以上 学年平均86%							
		自主学習ノート	A	学年平均100%							
		家庭学習時間	A	学年平均94%							
		保護者アンケート	A	0	82	18	0	0			
		児童アンケート	A	100			0				
		○少人数を生かした学習指導	○教師一人一人が個に応じた学習指導に努めている。  【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○個に応じて、eライブラリやEILS等のデジタルドリルを行い、学習したことへの定着を図っている。また、一人一人に目を配り、課題の出し方を工夫したり丁寧な声掛けを行ったりした。今後も更なる丁寧な指導に努めたい。	教職員アンケート	A	20	80	0	0
				保護者アンケート	B	12	64	6	0	18	
				児童アンケート	A	96			4		
	○協働的な学びの確保	○教師一人一人が「主体的・対話的で深い学びに向かう」授業づくりに努め、協働的な学びを充実させている。  【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	B	○授業において主体的に学ぶための授業の導入の工夫や、深い学びにつながるよう、生活の中で授業で学んだことを活用していく場面をつくっていくこと等を教職員が共通理解し対話活動を増やして、授業改善に努めた。 ○教職員の共通理解の下、自分の意見を伝えたり話し合いをしたりする場面を多く取るようにした。 ●複式学級の中で深い学びにつながる対話活動を行うためには、授業や単元の中で、適切に対話活動を位置付けて計画的に授業を進めていく必要がある。	教職員アンケート	B	0	75	25	0	
				保護者アンケート	C	12	41	29	6	12	
				児童アンケート	A	86			14		
	学校関係者評価委員の所見	○これまで通り、丁寧な指導をしていただきたい。 ○小規模校ならではの、考える力・表現する力がついていると思う。子どもの頑張りや保護者に伝える手法を考えていくとよい。 ○児童の自己評価が高いのがよい。このことがおらかな「自己肯定感」や「満足感」に繋がっているとよい。 ○完全複式学級を見据えて、複式学級における学習指導の充実にも努めてもらいたい。		学校の対応							○少人数のよさを生かし、今後も「分かる」「楽しい」授業づくりに努める。 ○学校通信や学級通信、ホームページを通して、児童の頑張りや保護者や地域の方々に積極的に発信していく。 ○これまで以上に、研修計画に複式学級の学習指導についての内容を組み込むことで、計画的に研修に取り組み、教職員の授業力の向上を図る。

【評価基準】 A:目標を達成(80%以上) B:おおむね達成(60%以上) C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果				
							4	3	2	1	分らない
やる気で頑張る子	○健康・安全教育の充実	○早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣が定着している。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	C	○生活リズム・家庭学習調べを毎月行い、実態把握に努めるとともに、保護者の方々にもご協力をいただいている。 ○学校保健委員会において、講師を招いて睡眠講話を実施した。日中の開催により、参加できる保護者が限られたため、保健だよりや生活リズム調べて講話の内容を発信した。講話後、意識が高まった児童もみられた。 ●早寝、早起き、朝ごはんの生活習慣を定着するには、繰り返し啓発していくとともに、今後も家庭の協力を得る必要がある。	教職員アンケート	B	0	62	38	0	
					保護者アンケート	C	12	46	18	24	0
					児童アンケート	C	57			43	
	○児童は、健康管理に努め、毎日元気に生活している。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定  ○欠席0の日が年間80日以上	B	○必要に応じた手指消毒や手洗い、マスク着用などの基本的な感染症対策が身に付き、健康管理能力が付いている。 ○縦割り班遊びや、学級のみんなで遊ぶ日などを設定し、休み時間も元気に活発に遊ぶことができている。 ●生活リズム・家庭学習調べでは、長時間スマホやゲームをしていたり、就寝時刻が遅くなったりしている児童もいる。生活リズム調べを用いた個別の指導や保健だよりによる啓発を通して生活リズムの改善を図りたい。	教職員アンケート	A	25	75	0	0		
				保護者アンケート	C	18	40	24	18	0	
				児童アンケート	A	82			18		
				欠席0の日	50日(12/23現在)						
学校関係者評価委員の所見	○生活リズムは、家庭での習慣が重要だと思う。学校としても継続して、繰り返しの指導をしていただきたい。 ○ゲームやスマホの普及に伴い、家庭での強い協力がないと生活習慣の定着は難しいと思う。 ○「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣や生活リズムは、学童期には最も大切だと考える。すぐに結果が出るものではないが、その重要性を児童自身がきちんと理解して、取り組んでほしい。		学校の対応	○毎月行っている「家庭学習・生活習慣調べ」を今後も継続し、児童自身に自分の生活を振り返らせるとともに、保護者へも啓発する。 ○関係諸機関と連携し、情報モラル教育を充実させる。 ○PTAと連携し、各種講座や啓発活動を充実させる。「学校保健委員会」の活動も充実させ、保護者主体の勉強会も充実させたい。							

【評価基準】 A:目標を達成(80%以上) B:おおむね達成(60%以上) C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果				
							4	3	2	1	分からない
やる 気で 頑張 る子 体	○挨拶・返事等生活習慣の確立	○児童は、進んで元気な挨拶をすることができる。  【目標値】 ○教職員・保護者・児童・地域の8割以上が肯定	A	○毎月、各学級で挨拶月目標を設定し、決めた目標を靴箱付近に掲示することで、目標を意識できるようにしている。毎朝登校後には、各教室を児童一人一人が挨拶に回る活動も定着している。また、月1回各学級で靴箱に立って挨拶運動を行っている。 ○挨拶の声の大きさには、個人差が感じられる。また、登下校中の地域の方への挨拶の様子を聞いていると、十分でないと感じられる意見もあり、継続して根気強い指導が必要である。	教職員アンケート	A	13	87	0	0	
					保護者アンケート	C	18	34	18	18	12
					児童アンケート	A	96			4	
					地域アンケート	A	31	69	0	0	0
	○体力づくりの推進	○児童には、発達段階に応じた体力が付いている。  【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○体育科や運動会、持久走大会等の学校行事などを通して、発達段階や個人差に応じた体力づくりを行っている。一人一人に合った目標を持たせ、個人差に応じた指導・支援を行っている。また、休み時間に外遊びを進んで行おうとする児童も多く、遊びを通じた体力づくりが自然と行われている。	教職員アンケート	A	25	75	0	0	
					保護者アンケート	B	29	47	12	12	0
児童アンケート					A	86			14		
学校関係者評価委員の所見	○元気な挨拶も含め、家庭での会話を大切にしてほしい。学校でも、継続して指導をしていただきたい。 ○よりよい挨拶を目指した取り組みを、より一層充実してもらいたい。		学校の対応	○これまで行っていた活動を見直し、児童主体の活動が充実するよう努める。 ○効果的な挨拶運動は継続し、児童が学校だけでなく家庭・地域でも元気に挨拶することができるように働き掛ける。							

【評価基準】 A:目標を達成(80%以上) B:おおむね達成(60%以上) C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果				
							4	3	2	1	分からない
学び続ける子	○夢と希望を持ち、最後までやり抜く心の育成	○夢と目標を持ち、最後までやり抜く心が育っている。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○每学期初めに、どの学年も自分の目標を立て、学期末には振り返りを行い、キャリアパスポートファイルにファイリングしている。 ○運動会や持久走大会などの学校行事、高学年においては、水泳練習や陸上練習を通して、最後までやり抜く経験を積み重ねて、どの児童も達成感と共に自己肯定感が育ってきていると思われる。 ●日々の学習や生活の中では、最後までやり抜くことが難しい児童も見られる。児童の長所や頑張りを認め、家庭とも連携を図りながら、やり抜く力が育っていくように励ましていきたい。	教職員アンケート	A	25	75	0	0	
					保護者アンケート	B	12	52	18	6	12
					児童アンケート	A	100			0	
	○学習習慣・読書習慣の形成	○豊かな心や言葉を育む読書活動が推進されている。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定 ○読み聞かせ等の読書指導を月3回以上 ○児童の読書量が1か月8冊以上	A	○現状の活動を継続することで、児童の読書時間を確保し、本に親しむことで豊かな心や言葉を育む。 ○学校での教員の読み聞かせの習慣化を図り、本や新聞に親しみかけを与える。 ○参観日の後、「親子貸出し」を実施することで、親子で読書に親しむ機会を設け、家庭での読書の習慣化につなげる。	教職員アンケート	A	62	38	0	0	
					保護者アンケート	C	6	18	58	18	0
					児童アンケート	B	71			29	
					読書指導の回数	A	3.3回				
					1学期からの読書通帳	A	1か月の平均 10.2冊				
	学校関係者評価委員の所見	○体育科の持久力や読書習慣は、友達同士で高め合うことが大切だと思う。校外活動についても同様であろう。 ○保護者の評価が低い項目があるのは、我が子に対する期待の大きさだと思う。かつての自分の姿と重なる。仕方がない面もある。	学校の対応	○自分の頑張りだけでなく、友達の頑張りも互いに認め合える手立てを工夫し、相互に励まし合いながら、体力づくりや読書習慣の定着を図ることができるようにする。 ○読書活動については、親子読書を奨励したり家庭学習に取り入れたりすることで、児童の取組が保護者に伝わるようにする。							

【評価基準】 A:目標を達成(80%以上) B:おおむね達成(60%以上) C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果				
							4	3	2	1	分からない
学び続ける子 知徳体	○郷土愛の醸成	○地域の人・自然・文化を生かした教育活動が展開されている。  【目標値】 ○教職員・保護者・地域の8割以上が肯定  ○地域体験活動を各学年学期に1回以上実施	A	○学校行事や教科等の学習の中で、地域の様々な場所に出掛けて学習したり、地域の方から話を聞いたりすることができた。 ○がんばり遠足では、地域の豊かな自然を全校児童で味わい、地域について学びを深めることができた。 ○運動会や学習発表会では、地域の皆様に子どもたちが元気に活動する様子を見ていただくことができた。 ○地域の社会活動を理解したり、地域の方と触れ合ったり、美しい自然を味わう体験をしたりすることは、ふるさと中山への愛着をもつ上でも重要である。地域の方のご協力に感謝し、今後も地域とのつながりを大切に活動を行っていききたい。	教職員アンケート	A	13	87	0	0	
					保護者アンケート	A	35	65	0	0	0
					地域アンケート	A	31	63	0	0	6
					地域体験活動	A	学年平均1.8回				
	○学校便り、学年通信、ホームページ等で学校の情報を積極的に発信している。  【目標値】 ○教職員・保護者・地域の8割以上が肯定 ○毎月1回以上学校・学級便り配付 ○毎日1回以上HP更新	A	○ホームページの充実により、目標を達成している。今後もタイムリーな情報を丁寧に発信していく。 ○毎月発行の学校だより「はぐくみ」は、地域の方にも配布しており、学校や子どもの様子がよく分かるのご意見をいただいている。今後も、子どもたちの様子を中心に情報を発信できるように努めたい。	教職員アンケート	A	62	38	0	0		
				保護者アンケート	A	41	59	0	0	0	
				地域アンケート	A	38	49	0	0	13	
				学校便り	月 1 回						
				学年便り	月 0.5 回						
				HP更新	月 20 回						
学校関係者評価委員の所見	○ホームページは、学校の様子がよく分かる内容である。引き続き情報発信をお願いしたい。 ○地域の人・自然・文化を生かした教育活動については、今後、コミュニティ・スクールの活用により、さらに地域と連携した活動を期待する。 ○郷土愛が深まっていることは、とてもうれしい。	学校の対応	○自分の頑張りだけでなく、友達の頑張りも互いに認め合える手立てを工夫し、相互に励まし合いながら、体力づくりや読書習慣の定着を図ることができるようにする。 ○学校運営協議会を効果的に機能させ、保護者や地域と連携した教育活動の充実を図っていく。その上で、より一層の郷土愛の醸成を目指す。								

【評価基準】 A:目標を達成(80%以上) B:おおむね達成(60%以上) C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果				
							4	3	2	1	分らない
業務改善	○教育の質の向上と教職員の負担軽減に向けた取組	○教職員は子どもと向き合う時間を確保できている。 【目標値】 ○教職員の8割以上が肯定	A	○87%が肯定的な意見で目標は達成している。限られた人員と限られた時間の中で、児童・保護者の多様なニーズや学校・学級の課題に対応しているため、理想的な児童との関りには十分至っていないと考える職員がいることも事実である。業務のスリム化は限界まで来ているように感じる。今後は、学校運営協議会との連携を図りながら方策を検討していきたい。	教職員アンケート	A	25	62	13	0	
		○巡回教育相談員、スクールカウンセラー等の人材や関係機関との連携がなされている。 【目標値】 ○教職員の8割以上が肯定		○100%の肯定的な意見で、目標は十分に達成することができた。校長のリーダーシップの下、今後も関係機関との連携を強化していきたい。 ○相談員やSSW、SCが、学級担任に直接アドバイスしたり、担任が相談したりすることで、個に応じた指導の充実を図ることができた。	教職員アンケート	A	38	62	0	0	
		○教職員は専門性が高まる研修に取り組んでいる。 【目標値】 ○教職員の8割以上が肯定		○校長のリーダーシップの下、研修主任が中心となり計画し、複式学級における授業の在り方についての研修を深めることができた。一人一台端末の効果的な活用に向けての研修や、児童の学力向上につながる研修も充実させることができた。 ○参加したい研修に積極的に参加することができた。しかし、今後教職員数が減っていくことを考えると、担任が学級を空けるとき授業形態を工夫しなければ、参集型の研修会への参加が難しくなる。 ●人権・同和教育の研修、特に部落差別問題解消に向けての研修を充実させていく必要がある。	教職員アンケート	A	13	74	13	0	
		○教職員は健康の保持とワークライフバランスの確立がなされている。 【目標値】 ○教職員の8割以上が肯定		○昨年度に比べ、肯定的な評価が25ポイント上昇し、目標を達成した。しかし、限られた人員の中での業務であり、一人が抱える業務量が減っているわけではない。負担感が少しでも軽減されるよう、より一層、協働性・同僚性を向上させていきたい。 ○今後も、超過勤務の縮減と負担感の解消のため、行事等の精選や業務のスリム化、学校運営協議会との連携を図っていく必要がある。	教職員アンケート	A	13	74	13	0	
学校関係者評価委員の所見	○心身の健康に気を付けて業務に取り組んでいただきたい。 ○人権・同和教育に関しては、オピニオンリーダー研修等に参加し、専門性を高めてほしい。 ○今後は、コミュニティ・スクールを活用し、教職員の負担軽減につながることを期待する。 ○全体としてよくなっているようで安心した。少ない教職員数での業務は本当に大変だと思う。コミュニティ・スクールがうまく機能することを期待する。	学校の対応	○学校の内外において、計画的に人権・同和教育研修に努める。 ○学校運営協議会を効果的に機能させることで、働き方改革につなげる。 ○管理職が積極的に働き掛け、業務の優先順位や軽重を付けたり、業務の再分担を行ったりすることで持続可能な教育活動を展開していく。								